

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 透過型触刺激法の確立と認識行動支援への応用

2. 個人研究者名

門内 靖明（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）

3. 事後評価結果

人と物とが接近/接触する際の認識や行動を支援するための透過型触刺激法の実現を目指した。具体的には、木、布、プラスチックといった身の回りの非金属媒質越しに電磁的に触刺激を提示する方法を確立し、その表面に近づいたり触れたりする際の触感を上書きすることを狙った。

結果として、これまで使われていなかったテラヘルツ波を刺激提示と行動支援に使うという意欲的なテーマに取り組んだ点は評価できる。本来、テラヘルツ波は使うだけでも一苦勞であり、使いこなして今後の研究の礎を作られたという点だけでもさきがけとしての意義は大きい。

今後として、皮膚のケラチノサイトから無意識の反応がある可能性が考えられるため、これを考慮した上での更なる研究を進めてもらいたい。